会　議　記　録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会　議　名	第４回高松市下水道事業運営検討委員会
開催日時	令和７年１月２７日（月）　午前１０時３０分～午前１１時２０分
開催場所	高松市防災合同庁舎５階　５０１会議室
議　題	高松市下水道事業基本計画の中間見直し（案）について
公開の区分	■　公開　　□　一部公開　　□　非公開
上記理由	－
出席委員	９人
	今岡委員、末永委員（副会長）、寺尾委員（会長）、鍋嶋委員、高橋委員、安部委員、山本委員、久保委員、土居委員
傍聴者	１人（定員５人）
担当課及び連絡先	都市整備局下水道部下水道経営課 ０８７－８３９－２７６５

会議経過及び会議結果

開会

会長挨拶

議題　（１）　高松市下水道事業基本計画の中間見直し（案）について

事務局から説明【資料１】、【資料２】及び【資料３】

（委　員）今まで議論してきたことが、中間見直しに反映されていることを確認できた。資料１の番号5、中間見直しにおける経費回収率の目標値が80％～100％となったが、一般家庭の下水道使用料について、現状と、仮に経費回収率が 80％、100％になった場合の具体的な数字が分かれば教えてほしい。

（事務局）下水道使用料の目安として、一般家庭４人世帯で１ヶ月に 20 ㎥を使用した場合、現行では税抜き 2,279 円。また、目標値として設定した経費回収率が 80％の場合は、税抜き 2,484 円（現行の使用料＋205 円）、経費回収率 100％の場合は、税抜き 3,104 円（現行の使用料＋825 円）となる。なお、徴収時においては、水道・下水道使用料は、２ヶ月分まとめて請求される。

（委　員）経費回収率 80％で約 200 円増、100％で約 800 円増ということで、800 円増となると非常に影響が大きいという印象を持った。経費回収率 100％が、本来目指すべき数字だということは十分分かっているが、市民感覚上、少し高過ぎるというのが正直

な感覚なので、その辺り配慮いただきたい。

（委　員）色々幅広く計画の中間見直しに織り込んでいただき、非常に良いものになったと思うが、今、下水道事業の環境が非常に厳しく、変化も急速に進んでいる。特に老朽化・耐震化・災害に対する対策、設備の維持等が非常に大事である。収入においては、財源の１つである使用料収入は、人口減少等により下がっていくことから、使用料を上げることも必要かもしれないが、物価高で市民は苦しんでるので、別に財源を求める、あるいは、経費を削減する両面で検討していかないといけない。優先順位を付けて、具体的にどの辺を特に改善していくかを詰めていただきたい。下水道は、市民にとっても、非常に重要なインフラなので、それをいかに中長期的に維持していくかを、非常に大変な作業だと思うが、市民目線でしっかりと対応をお願いしたい。

（事務局）優先順位をつけるという意味では、今回の中間見直しにおいて、下水道整備面積の目標値を下方修正して、下水道の新設に係る部分はペースを少し落として整備をしていく。一方、下水道管きょの耐震化率の目標値は上方修正をして、既存の下水道管の老朽化対策、耐震化等に尽力していくところである。また、下水処理場等の施設の規模については、今後、下水道事業の全体計画の見直しの中で検討していく予定である。

（委　員）耐震化率の目標値について、管きょ（管路）と施設（汚水系）と両方出ているが、工事費や材料費等の高騰を、かなり見込んでおかないと、途中で変更する可能性が出てくると思う。これについての予測や対応を何か考えているのか。

（委　員）老朽化対策で、将来的に設備投資が増え、将来の経常収支比率や経費回収率が相当悪化すると考えられる。将来的な採算や資金繰りを考えて対応をしっかりとお願いしたい。

（事務局）材料費や人件費の高騰は、一定程度見込んで設定しているが、余裕をもった設定はしていない。よって、そのような社会情勢等の変化に対応するため、ロードマップにおいても５年に１回は見直しをするということで、その都度確認をしながら、運営してまいりたい。

（委　員）資料２・５ページの上から５行目、「効果的な投資や経営の効率化に努めても、～資金ショートが生じるおそれがあります。」となっていて、６ページに記載の「経営健全化のための方針」に書かれている、何か考えられる限りの策を打ったとしてもなお、資金ショートしてしまうという印象を受けてしまう。表現の問題になると思うが、どのように捉えたらいいのか。

（会　長）もう努めても仕方がないのに、努めてと言っているのではなく、努めようによっては何とかなるかもしれない、というところを、どう織り込むかという意味で、良い書き方の提案はないか。

（事務局）これまでも収入の増に繋がる取組、支出の減に繋がる取組、収支の両面から経営を少しでも良くするための取組をしてきた。5 ページの財政収支見通しは、それらを今後も継続すると見込んでいるが、令和 9 年度には内部留保資金が枯渇してしまうという現実を示している。現在の下水道使用料についても、平成 22 年の使用料改定

から 14 年間改定しておらず、他市と比べてもかなり低い金額で据え置いていることや、現在の物価高騰も踏まえ、今後、使用料改定も含めて検討してまいりたい。

（事務局）効率的な投資や経営の効率化について、今後も努力していかなければならない。資料 2・5 ページの「努めても」という表現の仕方は、例えば、努めていくこととしているが、ただ、なかなかそれをやったとしても、今の物価高騰等、資金繰りの収支の見通しを見ても、厳しい状況にあり、その上で必要なものは使用料の適正化ということで対応させていただきたいという趣旨が伝わるように、更に良い表現の仕方は事務局の方でも検討をさせていただく。

（委　員）先ほど、使用料単価と月の料金の目安について説明があったが、4 人家族で 20 ㎥使った場合という表現が、一般の方が見たときに分かりにくいのではないか。例えば、使用水量の目安として、「1 人当たり、1 日約 0.2 ㎥」等の注釈があれば分かりやすいと思う。また、管路の老朽化対策にお金がかかるという話があったが、先日参加した、高知県等主催の下水道のシンポジウムで、能登半島地震の復興に際して、人口が少なく下水道管の修繕にお金がかかりすぎるところは、廃止して、浄化槽を入れることに補助を出すという話があった。高松市もコンパクトシティということで、人口の少ないところで下水道を修繕する場合、修繕するより浄化槽に入れ替えてもらい、補助を出すというのが、安いし現実的だという考え方も出てくると思う。

（事務局）高松市の場合は、処理場が海の方にあり、そこから中心市街地に古い管があって、それから南、東、西に向かって管が伸びている。その先端の方は下水道を整備した年数が新しく、管きょ自体はそれほど老朽化しておらず、耐震化もある程度できているので、先端の周辺部で廃止することについては、将来的に検討していったほうが良いかと思うが、今はそのような想定はしていない。下水道の最適化をしないというわけではなく、全体計画の見直しを図っていく中で、常にその視点を持ちながら、今後とも運営してまいりたい。管きょの耐震化率 42.5%という目標を掲げているが、基本的には中心市街地や幹線管路で耐震化を進めていく予定である。

（会　長）色々とご意見をいただいたが、これから計画に即して進めていく中で、更なる良いアイデアが出てくるということもあろうかと思う。今後も引き続き、議論を進めていくということを前提としながら、終了させていただく。

閉会

以上